

南アフリカ大陸滞在記

外国语学部
中国語学科 3年
志賀 雄太

南アフリカ大陸滞在記

アフリカ大陸に行くと決めた理由は、日本にはない大自然。また、未知なる出会いや、様々な好奇心からである。あとは、ノリである。日本の裏側に位置し、日本から1日半も移動時間がかかるこの土地で、何も得られないで帰つてくるほうが難しくらいに、日本とは考え方、行動、あいさつなにからなにまで違っていた。

南アフリカの恐怖
まず、空港はヨハネスブルグに到着する。しかしここは世界最悪と言われるほどの治安の悪さである。1人で行動など本当に自殺しに行くのと同じらしい。後にガイドの方に聞いた話だが、毎日死者は40人に達する計算らしい。さらに日本ではあるいは殺人事件のお話をたくさん聞かされた。ヨハネスブルグに降りて街を歩くには、最低



ケープタウン: テーブルマウンテン

かつたものの、夜ということもありやはり相当怖かった。アドレナリンが出すぎて、バスの中では少しも休めなかつた。今考えると、1000人には1人くらいの貴重な体験である。

国際都市、ケープタウン

ケープタウンになんとか到着。いやーリゾートっていうか、普通に栄えている。とても暮らしやすい街である。俺の目的はテーブルマウンテンと喜望峰である、完全に観光だ。

その前に、とりあえずホテル探してテキトーに過ごして1泊した。ケープタウンは旅行が好きな人なら絶対にお勧めする場所である。最近また治安の悪さが指摘されているようだが、俺は身の危険を感じるような出来事は起こらなかつた。むしろ、海外の観光客が多いせいか、街全体がとても国際交流歓迎的な雰囲気であり、俺が感動したことは、ホテルで1泊したが、最初渡された部屋番号に行こうとした時、フロントの姉ちゃんがWAIT!!と言つた。部屋番号札を交換させられた。なんまついつかと思って部屋に入った瞬間、窓の向こには巨大な岩壁。テープ

3人の男性と、地元のガイドか知り合いをつけなければ、旅行者は必ず標的にされるらしい。
僕は、そこからプレトリアという場所に移動した。タクシーで行つたが、白人だったことにびっくりしたし、さらにプレトリアについても、いたところに白人が歩いていたり、お店を経営したアフリカを感じさせない土地だった。町並みも、大自然アフリカというよりは、わかりやすく言うと台北や、バンコクなどの道が広いバージョンである。普通に不自由を感じさせない暮らしができる場所である。しかし、睨んでくる奴や、怪しい雰囲



写真はプレトリアで出会った日本人とフィリピン人が経営しているホテルで撮った一枚。

転手は客をみんな乗せた後に1人で荷物をバスに押し込むのだ。俺は窓側だったのでその様子を見ていた。すると、男4人組が歩きながらやつてきた。運転手となにやら雑談しているような感じだつた。すると1人がいきなりバッグを持ち出そっとした。そう、そのバッグが俺のである。俺はヘイ、ヘイ!と叫びながらバスを降りた。見ていてくれた乗客の何人かも降りてきてくれた。幸い、何がしたかったのか意味がわからない4人組で助

氣をしている人はそこらじゅうにいた。なので、いつも氣を引き締めて旅をした記憶がある。
ケープタウンへ行くため、空港で聞いた情報を頼りにここから出ている夜行バスへ乗り込んだ。その時、事件が起きた。俺のバッグが狙われたのだ。日本と一緒に、荷物は下の所に載せる。ころして、アフリカをまったく感じさせない土地だつた。町並みも、大自然アフリカというよりは、わかりやすく言うと台北や、バンコクなどの道が広いバージョンである。普通に不自由を感じさせない暮らしができる場所である。しかし、睨んでくる奴や、怪しい雰囲

ルマウンテンである。まさか、あの姉ちゃんはこのために。おれは初めて黒人に恋をした。
そういうえば、ブレトリアから気になつていたことだが、トイレの小便器、位置高すぎ。毎回背伸び。やっぱ足の長さが全然違うらしい。
ケープタウンになんとか到着。いやーリゾートってどうに、どうしてこの平坦な場所にいきなり岩が聳え立つように出来たのかただただ疑問だつた。頂上までの行き方はロープウェイかハイキング。俺はハイキングを選んだ。ウェイカハイキング。俺はハイキングを選んだ。旅人には当然の選択であろう。しかし、急な岩山、相当つらい。ほぼ崖なのだから。4時間くらいかな?頂上到着。
人がいっぱいだ。ハイタッチしてくれる人とかいると嬉しいなどか思つてるとホントにしてきてくれる、それがアフリカである。景色はもちろん素晴らしい。街と海が一望できる。旅人には当然の選択だろう。帰りはロープウェイである。この日はもう1回同じホテルに行つた。あの姉

テーブルマウンテン
ケープタウンについた瞬間からテーブルマウンテンはどうに、どうしてこの平坦



テーブルマウンテン頂上からの景色

あの有名なバスコ・ダ・ガマはここを経由してインドを目指したとされている。交通手段は非常に限られているため、俺はツアーバスに入り参加させてもらつた。特別保護区に指定されているためお金を払わないといれない場所がたくさんあつた。全体が国立公園となつていて、建造物はなく、ありのままの大自然が広がつていた。ボルダーズビーチは日本の女性なら絶対人気であろう。ペンギンと触れ合うことができる。なんならペンギンと泳ぐこともできるらしい。間近で見るとあんまりかわいくないペンギンにもいろいろな種類があるらしい。日本の水族館にいるペンギンよりもいろいろな種類があ

りでつかかつた気もする。

忘れられない2週間

外國語学部
中国語学科3年
三牧 絵里加

(きつかけ)

私は夏休みの2週間を利用して中国深センにあ
る、日本の中小企業の中国進出を支援するテクノ
センターという場所でインターんシップに参加さ
せていただいた。孫安石教授からこのお話を聞い
た時に、生活環境の厳しさや治安の悪さを聞い
てたので、初めては正直迷いもあり、参加を決意す
るのに時間がかかった。しかし今までの大学生活
を振り返ってみて自発的に行動を起こすことがな
かつたので、積極的な自分に変える良いきっかけ
になるのではないかと思い参加を決めた。また就
職活動を行う上で「働く」ということを、身を持つ
て体験できると思ったからだ。

(生活)

深センでの生活は出発前にも聞いていた通り、
全てにおいて圧倒された。以前中国へは、上海や
所だから有名な場所に

したかったからだとか。ふざけすぎ。理解できま
せん。まあ景色は申し分ない、自分がほんとにちつ
ぽけな存在に見えてくるほどに豪快な大自然。
大西洋とインド洋が混ざり合う場所。反対側に
日本があると思うとますます不思議な気持ちに
なった記憶がある。ただこの場所、突風がハンパ
ない。生えている木が斜めに生えてしまうほど、
突風が吹き続けている。あまりたそがれている余
裕もないのが現実である。

INナミビア

南アフリカの上に位置する国。ナミビア共和国。
あまり知られていない国ではあるが、ここには世
界で最も美しいとされているナミブ砂漠が存在す
る。ナミビアは交通機関が非常に少ない。旅をする
ならレンタカーを借りるかトラックでツアーリーす
るのが一般的である。僕はケープタウンから行

次がアフリカ大陸最
南端と言われる喜望峰。
ただ、地図を見ても分
かるが全然最南端じゃ
ない。ただ有名なケー
プタウンにあり、有名
な歴史人物も通った場
所だから有名な場所に



喜望峰

ナミブ砂漠

首都のウィントフックは相当近代化されてい
る。不自由ない暮らしをすることができた。ただ、
交通の便は非常に悪いので、余裕を持った行動
が必要だ。

ナミブ砂漠に行くなら午前中に行くことを勧
めする。午前の11時ごろには砂が熱くなり滞在困
難になる。僕らは旅の疲れかみな寝坊して着い
たのが9時30分。
1時間もしない
うちに引き返し
てしまつた。そ
れでも広大な景
色に圧倒され表
現しきれない自
然に大感動した。
しかし、ナミビ
アは夕方からが



ナミブ砂漠

動を共にした3人でレンタカーを借りて出発。人
生で一番幸せだとと思う体験をした。何もない場所
を何時間も時速100キロオーバーで走る。信
号もなくだれにも邪魔されることはない。上に
乗つて走つたりともうやりたい放題だった。こん
な自由は日本では考えられないと思った。

本番である。まず、夕焼けの壮大な景色。これぞ
アフリカ!といった感じのオレンジ色した綺麗な
太陽。暗くなれば空には星しかない。これは絶対
に見ておかなければいけない光景だと思う。

僕は、旅を通して、視野を広げることの大切
さを学んだ。世界には思いもよらない出会いが待
ち構えている。これは誰が行つても必ず経験する
ことができる、というか、経験せざるを得ない。
なぜなら、1人ではどうすることもできないこと
が起るからだ。そして、この出会いは、間違い
なく世界が平和になる瞬間である。自国の常
識にとらわれすぎて、他国を批判する。自国の非
常識が、他国では常識なことがしばしばある。も
ちろん逆もある。視野を広げることは、平和にも
つながると思ったとき、旅が好きになった。



部屋のベッド